

## 平和行動 in 長崎 報告

日 程 : 2019年8月8日(木)~9日(金)  
参 加 : 13名

### 1. 連合岐阜から13名の派遣団が参加

連合の平和行動 in 長崎に連合岐阜から13名が参加しました。



### 2. 被爆74年 連合2019平和ナガサキ集会への参加

8月8日(木)15時30分からは、被爆74年 連合2019平和ナガサキ集会が「語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で 核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう」をテーマに開催されました。

集会では、神津里季生連合会長、中村法道長崎県知事、田上富久長崎市長の挨拶に引き続き、初めて国際労働組合総連合(ITUC)会長 アユーバ・ワバ氏が出席され「核の恐怖が世界を支配し続けています。私たち全員の固い決意によってのみ、状況を変えることができます。私たちは声をそろえて訴えます。二度と繰り返さないと」挨拶されました。

また、若者からのメッセージとして、「ナガサキ・ユース代表团」「高校生平和大使」による活動報告が行われ、平和アピールの採択、9月に行われる平和行動 in 根室に向けたピースフラッグリレーが行われ、集会が終了しました。



### 3. 2020年核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議に向けたシンポジウム

被爆74年 連合2019平和ナガサキ集會に引き続き、同シンポジウムが「核兵器廃絶 1000万署名に向けてキックオフ！」をテーマに開催されました。

シンポジウムでは、神津里季生連合会長の挨拶の後、政府の取り組みとして、外務省の総合外交政策局軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課の今西靖治課長が報告され、被爆者の訴えを奥村アヤ子さんが「爆心地に近い城山町（500m）で被爆。一瞬にして9人の家族は引き裂かれ、私はひとりぼっちになってしまった。このような悲しさと苦しさを次代を担う子どもたちに与えてはなりません。そのために核兵器廃絶を願い、訴えています。」と涙ながらに語られました。その後、「核兵器をめぐる最近の国際情勢」と題して、長崎大学核兵器廃絶研究センター長の吉田文彦氏が講演され、山本和代連合副事務局長が決意表明を行い閉会しました。



### 4. 「被爆74周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」への参加

2日目は被爆74周年となる「平和祈念式典」に参加しました。

長崎市長による「長崎平和宣言」では、いまだに核兵器禁止条約に署名・批准しない日本政府を強く批判するとともに、核保有国のリーダーに対して、核軍縮の実現を強く訴えました。

また、被爆者代表による「平和への誓い」では、「日本が戦後に確立した「平和憲法」を守り続け、戦争や核兵器もない世界を実現する指導的な役割を果たせる国になって欲しい」と訴えられました。



### 5. 連合ピースウォークへの参加



「平和祈念式典」後に行われた「連合ピースウォーク」へ参加し、平和祈念像や原子爆弾落下中心地碑などを回り、連合長崎の青年委員会から説明を受けました。

その中の一つ「松山町防空壕群（跡）」は平和公園の斜面に多くの横穴式の防空壕が作られていました。爆心地から500m以内にいた人々のほとんどが即死しましたが、これらの防空壕の中でわずかながら生き残った人もいたそうです。し

かし、被爆した人たちは火傷や放射線などで重傷を負い、苦しみながら次々に亡くなったそうです。

## 6. 感想・コメント

平和行動 in 長崎は、10 年ほど前に産別代表で参加した以来、今回で 2 回目でした。集会での被爆者の訴えや連合長崎青年委員によるピースウォーク、長崎原爆資料館の展示物を観たり聴いたりして、改めて原爆の恐ろしさを痛感した。

「長崎を世界で最後の被爆地に」の言葉の重さを世界の人々が理解して、核兵器も戦争もない平和な世界が実現できるように、今自分ができていることを考え行動していきたいと思います。